

## 上諏訪小学校の夢と希望が盛り込まれた校章が決まりました！

第11回の「ゆめスクールプラン推進委員会」が1月13日（水）に諏訪市役所で開かれました。「上諏訪小学校の校章デザイン決定について」「上諏訪小学校PTA本部役員の役職等決定」「上諏訪小学校の校歌制作方針について」「城北小学校校舎等の利用に係る検討について」等の協議や報告がなされ、質疑が行われました。



### 1 経過報告



宮野総務部長より報告

### 〈第11回推進委員会の内容〉

#### (1) 上諏訪小学校の校章デザインの決定について

宮野総務部長から、校章デザインについては「簡易公募型プロポーザル方式」により公募を行い、選考委員会にて審査を行った。更に、城北小学校、高島小学校、上諏訪中学校の児童・生徒及び、来年度から上諏訪小・中学校に通学を予定している城南小学校の



上諏訪小学校  
校章デザイン

児童を含めた計500名からの投票結果を選考委員の点数に加算した。その結果、選考委員会、児童生徒の投票においていずれも上位となり、総合点で最高点数を獲得した校章デザイン(右上図)が決定された旨の報告がされました。

#### 《基本モチーフ》

##### ① 統合する両校の元校章に使われており「高島藩の家紋」でもあった梶の葉を使用。

梶の葉は、諏訪地方に伝わる気風「質実剛健」を表すものであり、地域の誇り・象徴として親しまれている。梶の5枚の葉部分の形状を統一しないことで児童の個性と自主性、また多様な人間関係を表現。

##### ② 大きくあしらった葉の部分を「市章」「あやめ」「手長さま」を組み合わせた「おおとり」のはばたきをイメージして、広げた双翼は2校の統合から成る「新しい未来への希望・夢へはばたく9年間」を9枚の羽で表現。

地域の守り神である手長さま。ずい鳥<sup>\*1</sup>は幸せをもたらす「和と伸長」を表すもの。市花制定の「あやめ」は「心の豊かさを養う」シンボル。地域の象徴であり、親しみをもつ3つの要素を組み合わせることで学校目標を表現。【\*1めでたいことの起こる前兆とされる鳥(鶴や鳳凰など)】

##### ③ 校名を囲む市章の円形は互いに尊重しあえる「調和の心」の意味を示し、手長丘よりの諏訪湖の眺めも表現。

校名の書体は視認性<sup>\*2</sup>が高く普遍性もあるユニバーサルデザインフォントを基にデザインを加え作成したもの。「諏」の字の左右に諏訪湖の穏やかな水面を表現。ゆったりと大きな心で育ち、さらにいずれは故郷へ戻って活躍して欲しいと土着性を意識。【\*2目で見た時の確認のしやすさ】

##### ④ 市章のずい鳥の顔の部分は市花である「あやめ」を配置し、小学校の「小」の文字になるように配置。

諏訪市の教育伸展のための中心的役割でもあることを表現すべく、要部分に市花である「あやめ」を配し”諏訪のみなもと”を表現。

### 2 協議報告

#### (1) 上諏訪小学校校歌制作方針について — 承認 —

##### ① 基本方針

校歌については、開校後に醸成される校風を踏まえ、また、作詞・作曲者にも児童や学校の様子を見学してもらうなど、開校後数年を要して制作される事例が多いことから、令和3年4月以降に上諏訪小学校を中心とした、「諏訪市立上諏訪小学校校歌制作委員会(仮称)」を設置し、校歌策定に向けた準備を開始する。

## ② 校歌制作に向けた想い

令和3年度第一期卒業生のために、「校歌制作委員会」においては可能な範囲で、令和3年末頃までに校歌の制定を目指してもらいたい。但し、この提案は校歌制定の期限を定めるものではない。

## (2) 城北小学校校舎等の利用に係る検討について — 承認 —

城北小学校の校舎等の利用につきましては、推進委員会立ち上げ当初、「総務部会」において検討するとしていましたが、昨年1月に行いました第5回推進委員会において、

○地元地域のコミュニティなどの新たな拠点としての利用についても検討を進める一方で、市の財産であることから市全体での有効活用も視野に入れる必要があること。

○市全体で進めている「公共施設等総合管理計画」との整合性を図る必要があること。

により「総務部会」ではなく、推進委員会事務局において関係地区や関係団体との協議、調整のうえ、跡地利用案を検討し、推進委員会に報告するという付託先の変更を行いました。

しかしながら、推進委員会では、閉校となる城北小学校と高島小学校と新たに開校する上諏訪小学校の様々な課題の検討に加え、城北小学校校舎等の跡地利用等を並行して協議して、最終的な結論を出すことは難しい状況と考えます。そこで、まずは本年4月に上諏訪小学校を開校し、上諏訪中学校との小中一貫教育がスタートできるよう、委員会において最終的な調整に万全を期したいと考えています。

つきましては、本委員会で引き続きの検討はせず、市教育委員会においてこれまでと同様に、地元地域や関係者の方々からご意見を伺い検討を重ねる中で、来年度(令和3年度内)を目途に、市としての方針を定め、地元地区や市民の皆様方にお示しして行きたいと考えています。

## (3) 《城北小学校開校55周年・閉校記念式典、音楽会 学校長式辞(一部略)より》

“「われらともそう夢の灯を」と、次に向かう新たな夢の灯をともして…”

城北小学校長 松井 聡

閉校の年を迎えた今年は、多くの方々が城北小学校を訪れています。その中に、大学生がいました。珍しく若いお客さんでしたので「どこか見たい場所はありますか？」と声をかけると、「体育館へ行ってみたい」と言うので案内しました。体育館に足を入れるやいなや「あ～懐かしいにおいがする」と、独特な体育館のにおいに小学校時代を思い出したようで、みんなでドッジボールをしたことや、卒業式・入学式、音楽会など体育館での思い出を話してくれました。



実は、この体育館にある「バスケットゴール」にもこんなエピソードがあります。開校して5年目(今から50年前のことです)、その時のことが文集に綴られていたので紹介します。「全校集会の時バスケットゴールを寄付してくださった方が、お話をしてくださった。『戦争の頃は、運動の施設が何もなく。運動場は耕してサツマイモを作った。運動をして体を鍛えなければ、勉強もできないし、社会に出ても役に立たない。どんな小さなボールでもいいから、背伸びしてこのゴールに入れてください。』と、その人の話を聞いていて、心の中に何かわき出てきて…。ふと気がつくと体育館はシーンとしていた。」普段当たり前のように目にしていたバスケットゴールにも、このような歴史が刻まれていました。



また、校庭の入り口にある校歌を刻んだ石碑が披露された時の文集には「白い布が取れた、みんなの拍手が校歌碑に集まった。校歌・校章、そして校歌碑ができた。校歌が、風によって響き渡る。この大きな石に負けない声。このずっしりした石に負けない心。頑張ろう。」と、学校の歌、自分たちの歌である「校歌」へ寄せる思いが綴られていました。

このように、55年間の歴史を積み重ねてきた城北小学校のいたる所に、その時々ドラマがあり、受け継がれてきた城北魂が存在します。それは保護者・地域の方々のご願いであったり、小学校時代を過ごした営みそのものであったりと、かけがえのない宝物として一人ひとりに存在していることがわかります。だから、「われら育てようこの城北」と、55年間育て培われた歴史の上に立つ今、私たちは、このような歴史と関わっていただいた多くの皆様に深く感謝を示し、残された生活に誇りを持って過ごしていくと共に、「われらともそう夢の灯を」と、次に向かう新たな夢の灯をともしていきたいと思えます。

第12回推進委員会の予定

3月10日(水) 19:00～

場所:諏訪市役所 大会議室

＜連絡先＞ ゆめスクールプラン推進委員会 事務局  
諏訪市教育委員会 教育総務課 教育企画係  
TEL 52-4141 (内線467) FAX 53-8299